21世紀 COE 国際シンポジウム

主　催　　21世紀 COE プログラム（国立大学法人富山医科薬科大学）
共　催　　日本生薬学会関西支部，富山医科薬科大学・和漢薬研究所
日　時　　平成16年12月 4 日（土）9:30～18:00
場　所　　富山県民会館304号室（富山市新総曲輪 4-18）
シンポジウムテーマ　「薬用資源の保全とその有効利用」
主　旨　　21世紀 COE（卓越した拠点）プログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」の一環として国際シンポジウムを実施

富山医科薬科大学 COE プログラムの課題名は「東洋の知に立脚した個の医療の創生」である。このプログラムの構成は13人のコア・メンバーと10人のフェローである。「東洋の知」の内容は広汎であり，哲学，伝統的薬物，伝統的医療技術などを包含している。

教育研究組織は大きく 2 群に分けられている。その第一群は臨床・基礎研究グループで，糖尿病性網膜症，アトピー性皮膚炎，更年期障害および関節リュウマチを対象疾患としている。西洋医学的に同一の疾患と認識されるそれぞれの病態も，漢方医学的な見地からは亜群に分類される。これを地球儀に喩えると，経度と緯度の関係である。そこで，この経度と緯度の交差する地点の特徴を患者血液のプロテオーム解析によって明らかにすることを主要な研究手段としている。

第 2 グループは基盤研究として，ユーラシア大陸東部の薬用資源の探索とそのデータ・ベースの構築と公開，生薬成分の腸内細菌による代謝，漢方方剤の薬理作用に取り組んでいる。またプロテオーム解析で得られた情報から，病理学的特性を検出し，あるいはノックアウト，ノックイン動物を作製して経度と緯度の交差地点の特徴を分子生物学的に解明するなどの教育研究を行っている。

以上のように本プログラムは西洋医学と東洋医学の異なったパラダイムを融和し，「個」を認識した新たな治療学を形成しようとするものであるが，今回の国際シンポジウムでは第 2 グループの活動を一層推進するために企画されたものである。現在直面している薬用資源の諸問題や薬用資源の有効利用に関して，各国の状況が明らかになり，今後の国際的に連携した取り組みの方向が明らかになることを期待している。

プログラム

講　演

演題 1：中国におけるマオウとカンゾウの資源の現状およびその利用と保護対策
　　蔡　　少青　博士（北京大学薬学院・教授）
演題 2：GACPと薬用資源の利用
　　木内　文之　博士（国立医薬品食品衛生研究所　筑波薬用植物栽培試験場 場長）
演題 3：天然資源を素材とした健康飲料の開発
　　服部　征雄　博士　（富山医科薬科大学・和漢薬研究所教授）
演題 4：韓国における天然薬物資源とGAP政策の問題点
　　陸　　昌洙　博士（慶熙大学校・薬学大学・名誉教授）
演題 5：モンゴル産薬用植物の現状と将来性
　　J. Batkhuu 博士（国立モンゴル大学生物学部　助教授）
演題 6：ジンセノシドを多量に含有するタラの木の有効利用
　　中村　憲夫　博士（富山医科薬科大学・和漢薬研究所　助手）
演題 7：延胡索の品質評価について
　　王　　崢涛　博士（上海中医薬大学　教授）
演題 8：遺伝子解析を応用した健康食品および生薬の評価
　　小松かつ子　博士（富山医科薬科大学・和漢薬研究所　教授）

総合討論